

第2回大井町総合計画審議会 概要

日 時：平成27年3月24日（火）

午後1時10分～午後3時20分

場 所：大井町役場301会議室

出席者：清水豊司委員、鈴木武夫委員、橋本淑子委員、鈴木治二委員、手戸雄吾委員、山地裕昭委員、西山健一委員、熊澤博之委員長、芦川智委員

欠席者：植松清治委員、小島章委員、瀬戸二郎委員、香川麗子委員、君塚喜一委員

事務局：伊藤敏春参事、湯川博之課長補佐、立川悟主査、田中元清（ランドブレイン株式会社取締役）、小暮昌史（ランドブレイン株式会社）

1 開会

企画財政課長より開会のあいさつ

2 議題

(1) 第5次総合計画前期基本計画の総括について

- ・事務局より、前期基本計画期間中の平成23年度から平成26年度に取り組んだ事業について説明（資料1）

【意見・質疑】

- 2ページの「③人にやさしいまちづくりの推進」について、「理念に基づき、個別事業において対応した。」とあるが、具体的には、どのような事業を行ったのか。また、7ページの「③地域福祉活動計画との連携」について、社会福祉協議会との連携が掲げられているが、現在、町と社会福祉協議会の関係はどうなっているのか。
 - 「③人にやさしいまちづくり」については、道路、建物のバリアフリー対策として掲げてある。グリーンベルト設置やオストメイト対応、ベビーシート設置のトイレを整備する等、個別事業を実施する際に、それぞれ状況に応じて配慮した形で取り組んでいる。社会福祉協議会との関係については、介護福祉課が社会福祉協議会と相互に協力や情報交換を通じながら地域福祉に取り組んでいる。
- 補足させて頂くと、行政と社会福祉協議会が一体となって福祉プランを作成することが望ましい、という国の方針により、大井町では平成19年度から共同で第1次大井町地域福祉プランを策定したと聞いている。
- 町長は今年度の施政方針で、前期基本計画を「概ね達成する見込み」とであると表明したが、未達成の事業はもうちょっとあるのではないかと。1ページの総括では不十分であり、さらに突っ込んだまとめが必要ではないかと。一例としてパークゴルフ場の整備が当初から掲げられているが、4年間、検討が続いている状況にある。一般的な感覚としては1年、2年と検討して結論が出ないものは廃止となるのが当然ではないかと。町民アンケートを見ても公園、芝生広場を要望する方は40%を超えるのに対して、16.7%しかいない。他の事業についても全体的に達成度が低いのではないかと。
 - 「概ね達成」というのは、全ての事業が完結するわけではないし、多くの事業が継続していく。何件が終了して、何件が継続していく、といった形ではお示しできる。パークゴルフ場については、町長を先頭に町内を探し回っているが、適地が見つからない状況にある。アンケート結果では他の

項目よりも低いかもしれないが、アンケートの回答率だけでは優先順位を付けられない。数字が小さいからなくせというのも乱暴な話になってしまう。

- すぐに実行できなくても大枠として計画に記載しておかないと、条件が整ってきたときに実施できなくなってしまうので、盛り込んでおくというのも一つの考え方ではないだろうか。
- 幼稚園教育について今後の運営形態をどのように考えているのか。子どもが減ってきている中で延長保育のレベルで考えていくのか、それとも認定こども園への移行なのか、どのように考えているのか。
 - 認定こども園への移行は特に考えておらず、現行のままを考えている。延長保育の実施を来年度から予算化している。施設面を含めて踏み出せない状況にあるので、慎重になっている。
- 大井町の子ども・子育て支援事業計画が取りまとめられたところであるが、認定こども園を進めていく価値はある。こども園の形態により0歳から5歳の子どもが常時生活でき、一貫性のある教育と保育を提供することが可能になる。子ども・子育て計画でも「今後検討する」という形で頭出しされている。これからの人口問題を考えると、女性が働いていく中で子育て支援をしていかないと、いくら地域開発をしても住んでもらえないのではないかと。地域開発や子育て支援、利便性の確保を一体として捉えていく必要がある。
- 町政懇話会でも意見が出たように、交通安全対策、特に通学路の整備については、子どもにとっての非安全道路が多いので後期基本計画において強烈に力を入れてほしい。紫水大橋をはじめとする大規模な道路整備も大切だが、小規模で身近なところの整備も重要。
 - 現在の計画の中でも交通安全対策を進めていくことを記載している。実施にあたっては、2年に1度、現地を町長、関係課長とで実際に見回りながら、予算の中で優先順位付けがされている。
- この資料からは何が成果か見えてこない。四季の里をつくった。それでどうなったのか全くわからない。整備することが目的ではないのでは。商業や観光についての成果が見えない。農業についてもよくわからない。成果がないから載ってこないのではないかと。相和地域活性化委員会も地域が活性化していないからこそ設立されている。基本計画には、こういった地域をめざすのかを書くべきではないかと。
 - 成果の出し方は非常に難しい。しかし、地方版総合戦略を策定していく中では、指標として成果を見える形にしていくことが求められることになる。来年度は本審議会の委員の皆様にも地方版総合戦略の委員を兼ねていただこうと考えているので、その際は改めて一緒になって議論をしていきたい。
- ハードは目に見えるが、商業や観光といったソフト面は言葉で表すのが難しいのかなとも思う。
- 成長戦略の2番目である「産業立地と居住環境の創出」については、「協議会にて情報収集をした」、「情報交換をした」とあるが、そのまま終わりになっているのか。その後、どうなったのか。
 - 一つひとつの情報を提供する中身ではないので、こういった活動を町が行ったかをお知らせする資料としてご理解いただきたい。具体的な動きは出てきていないが、町がそういった活動の中で今後も引き続き情報をとりにいきます、ということ。

(2) 大井町の現状と課題について

- ・事務局より、人口の各種統計データを中心とした現状と課題について説明（資料2）

【意見・質疑】

- 開成町では大学卒業年齢で人口が減っているが、その後の年齢で増えている。人口増加の要因をどのようにみているのか。

- 資料2の12ページの右側の表に近隣市町の通勤状況がある。開成町を見ると町内での就業割合は決して高くはない。むしろ小田急線による公共交通の充実と近年の開発がうまくかみあっているからではないか。
- 空き家の状況はつかんでいるか。年々、空き家が増えてきていると言われているが、そのままにせず、サロンにしたり、若い人向けにリフォームしたり、活用を考えてはどうか。
- 2年前に調査したところ戸建では37戸の空き家が確認されている。今後、計画の中で踏み込んでいけたらと考えている。
- 子どもの減少に伴い教育施設の空き施設も増えてくるのではないか。そうした施設や空き家を活用して、ストレスの多い都市部の子どもを自然豊かな大井町で一年間、預かるなどの施策も良いのでは。
- 特に人口減少、少子化の著しい相和地区での対策として考えていきたい。平成28年度を目途に相和小学校の学区を撤廃し、小規模特認校にすることを進めている。さらにタブレット端末を活用した授業などICT化を進め、特徴ある教育を実施していく予定である。
- 資料3の町外住民アンケートの質問6の結果をみると、町外の方は「美味しい郷土料理」や「温泉旅館」、「特産品」など大井町にはないものばかりを求めている。スイーツ開発もどうなったのかよくわからない。
- ご指摘の通り、今はなくてもこれから作っていく、ということを引き出していくための計画づくりをしていきたいと思う。ワークショップでは可能性として様々な資源がでてきている。資源があるけどPRが十分ではないのかと思う。
- ないないではなく、アンケートで下位にあげられている項目こそが大井町の強みとなるのではないか。
- 他町との連携も重要となってくると思うが、具体的な動きはあるか。
- かつて2市8町で合併の動きがあったが立ち消えになった。その後、現在では1市5町で基礎自治体のあり方を検討する会議を設け、今は基礎資料を集めて調整している段階にあるが、これからの連携の在り方についても検討していきたいと考えている。
- 近隣で小児科、産科が減ってきている。秦野の赤十字病院も4月で分娩ができなくなり、足柄上病院も夜間の小児医療が受けられなくなる。広域で考えていく中で病院の充実も取り組んでいきたい。
- 子育て支援は後期基本計画において外せない重要な課題であると考えている。その対策次第で大井町に人を呼べるか、人が出ていかないようになるか決まると考えているので十分に盛り込んでいきたい。
- 大井町は大規模災害がない地域であるが、今後も積極的な予防措置に取り組むことで住み良い町だと思っただけなのではないか。

(3) その他

- ・ 前回の審議会同様に議事録を作成し、委員の確認後、公表することを確認した。
- ・ 来年度からは審議会委員に総合戦略策定委員を兼任いただくとともに、来年度末には実施状況の点検会議を開催する旨の依頼を説明。
- ・ 第3回審議会の日程については、委員の変更もあることから、4月以降に改めて調整することを確認した。